

第3回 ちばコラボ大賞

連携事例の紹介

県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、地縁団体、企業や学校、行政機関等とNPO（市民活動団体）とが連携して地域の課題解決に取り組むことで、成果をあげている事例がたくさんあります。

県では、そのような連携事例の中から、他の模範となるような優れた事例を「ちばコラボ大賞」として表彰しています。

第3回目となる平成25年度は、県内各地から16件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたのでご紹介します。



千葉県環境生活部県民交流・文化課

※平成26年度からは、千葉県環境生活部県民生活・文化課となります。



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

表彰式

表彰式では、鎌田審査委員長に講評をいただいた後、千葉県環境生活部長から表彰事例の代表者に賞状が贈られたほか、チーバくんも加わり記念撮影が行われました。



審査委員長からの講評



千葉工業大学 副学長
鎌田 元弘氏

ちばコラボ大賞を受賞された皆様、おめでとうございます。
審査にあたっては、「千葉県の都市部、農村部、その中間というような地域性を活かしていること」、「連携がアクティブに広がっていること」、「コラボ・協働ならではの成果が認められ今後も継続していく可能性が高いこと」などの観点が挙げられ、その結果、3事例を「ちばコラボ大賞」として選考いたしました。
なお、今回応募いただいた事例の中には、小規模ながら地元で地道にしっかり活動している事例もあり、千葉県の協働やコラボの取組みに対する層の厚さを改めて感じました。
皆様方の真摯な取組みにより、今後も地域の中でご活躍いただけることを祈念いたします。

表彰事例1

富津市志駒・山中地区 「廃校を活用した教育ファームづくり」

地域振興

富津市

✓NPO法人千葉自然学校 ✓環南みんなの楽校 ✓富津市峰上第十区 ✓富津市峰上第十一区

●過疎、高齢化の進む志駒・山中地区

富津市志駒・山中地区では過疎と高齢化が進み、両地区を校区としていた環南小学校も平成20年3月に廃校となり、地域の活性化のため、廃校の活用方法について検討が行われました。

●両地区とNPOの連携による地域の活性化へ

検討の結果、志駒・山中地区の住民とNPOが連携して、廃校を自然や農林・食・暮らし等を体験できる教育ファームとして活用、将来的には潮干狩りや海水浴、産業学習の場として関心が高まりつつある東京電力富津火力発電所、荏原製作所富津事業所とも連携し、観光や教育旅行の振興をはかり地域全体の活性化につなげていくこととなりました。

●「環南みんなの楽校」の体制作り

平成20、21年度は林野庁の補助事業である「山村再生総合対策事業」を活用し、地元説明会やフォーラムを開催することで地元住民に向けて気運の醸成や情報交換・広域連携体制の構築を行い、日帰り体験ツアーなどを開催しながら「環南みんなの楽校」の名称で教育

ファーム活動を行う体制を作りました。

●年間を通じて体験イベントを実施

平成22年からは、教育ファーム「環南みんなの楽校」の活動として、ジャガイモやサツマイモ等の収穫を伴ったアウトドアクッキングや稲刈り、川遊び体験、そば打ち体験などのイベントを年間を通じて開催しています。

また、一般参加者と同程度の地元スタッフの参加もあり、地域主体で事業を実施するための人材育成も進めており、新たな事業の提案や継続的なイベント実施が期待できる取り組みです。



表彰事例2

発酵をテーマとした “小さな公”をつなぐまちづくり

まちづくり

神崎町

✓発酵の里協議会

●「発酵の里協議会」の立ち上げ

神崎町は、かつて「関東灘」と呼ばれるほど、発酵・醸造産業が盛んな地域でしたが、現在は衰退し、商店街の活気も失われつつありました。そんな中、神崎町を再び元気な町にしていこうと老舗の酒蔵や地元農家が中心となり、発酵をテーマとしてまちづくりに取り組む「発酵の里協議会」を立ち上げ、発酵食品分野の産業振興を中心に取り組んでいました。しかし、東日本大震災の発生により町は復興活動に追われたため、震災前以上に町を元気にしていこうと行政やNPOに協働を呼びかけ、地域の活性化を進めています。

●「全国発酵食品サミットinこうざき」の開催

2013年1月には、全国の発酵好きや醸造のスペシャリストが神崎町に集まり、「全国発酵食品サミットinこうざき」を開催し、伝統食や環境問題に及ぶ発酵の多面的な機能や可能性を共有・理解できる場となりました。

●食の分野に留まらない「発酵」の活用

また、発酵の里協議会では、発酵を食の分野に留まらずにサービスを提供しており、発酵熱を利用した酵素

風呂づくりの体験やバイオガスプラントづくりワークショップの実施、お酒を使った化粧水を作る手作り発酵コスメのワークショップなどを実施しました。

今後は、圏央道神崎ICの開通、道の駅開設に伴い、交流人口の増加、町内流入に向けた新たな特産品やサービスの提供を目指しており、さらなる発展・継続が期待できる取組みです。



表彰事例3

関わる全ての人が笑顔になる 仕組み

環境・福祉

市川・船橋市

- ✓株式会社ソーケン製作所
- ✓NPO法人ちばMDエコネット
- ✓NPO法人地域生活支援の会ステップ
- ✓NPO法人カム・トゥルー石陶房
- ✓NPO法人1to1

●3つの地域課題

里山に放置された間伐材が朽ちることによるCO₂の排出、福祉事業所で働く方の賃金の低さ、児童養護施設における改修工事の必要性という課題に対し、たくさんの課題をひとつの形にしてみんなが笑顔になる仕組みを作りたいという考えのもと、企業と福祉事業所を運営しているNPOとが連携し、市川市、船橋市を中心に活動しています。

●「関わる全ての人が笑顔になる仕組み」の完成

株式会社ソーケン製作所が、全国展開している企業とのタイアップ事業を活用し、里山に放置されている間伐材を利用した商品作りの一部をビジネスパートナーとして福祉事業所へ委託することで、福祉事業所で働く方の賃金アップにつなげています。また、収益の一部を児童養護施設の改修工事費用などに充てることで、環境問題と社会問題の解決、社会貢献活動へとつながる流れを作りだす「関わる全ての人が笑顔になる仕組み」が完成しました。

●東日本大震災被災地への支援

さらに、東日本大震災被災地への支援として、被災地復興イベントの実施や間伐材大型クリスマスツリーを東北被災地の保育園へ寄贈するなど、県外にも広がりを見せる取組みです。



平成25年度ちばコラボ大賞 応募事例

幸町1丁目を安心と生きがいのあるまちに再生



「金曜ふれあい市」の開催、電話や警備会社の協力による高齢者の見守り安否確認体制の構築などを地区内で活動する団体や近隣の企業、学校、行政、NPOとの連携により実施しています。

「美しいふるさと」づくり



無農薬稲作保全システムによる里山自然の保全再生を始め、アメリカザリガニ釣り大会による外来種駆除やメダカ生息再生実現、稲刈り祭りを開催し、市民と共に美しいふるさとづくりに取り組んでいます。

こどもの視点で地域づくり～こどもたちと共につくるまちのメディア～

四街道市内の小中学生が記者として地域のイベント取材などをを行い、その内容をこども記者クラブ通信として市政だよりに掲載したり、市役所での発表・展示をすることにより、地域の情報発信を行っています。



住民参加と地域資源の協働による「安心・安全のまちづくり」

大学との連携による健康相談・傾聴ボランティア事業や住民交流の場としてコミュニティカフェの設置・運営、ジュニアボランティア隊による地域行事の活性化等に取り組んでいます。



「命を育む生と性～赤ちゃんとのふれあい体験を通じて～」 家庭の教育力の向上を目指した高等学校家庭科の挑戦



「将来の親」としての力を養うため、松戸市子育て支援課が中心となり松戸市在住の親子を募り、高等学校生徒と赤ちゃんのふれあい体験をNPOとの連携により実施しています。

緑が丘クリーンプロジェクト



街を綺麗にすることで街に愛着を持ち、市民同士の交流を作りながら共に安心して暮らせるまちづくりを基本理念とし、八千代緑が丘駅周辺の清掃活動・防犯活動に取り組んでいます。

市民手作り七夕飾り及び木下ビッグひな祭り事業

NPOや商店街、学校、高齢者クラブ等が連携し、駅や地域全体の活性化と住民交流の促進のために「市民手作り七夕飾り」、「木下ビッグひな祭り」の2大イベントを開催しています。



東日本大震災復興緑化支援100万本植樹ボランティア活動

NPOが宮城県、岩手県の森林で採取した樹種を、八街中学校特別支援学級の生徒が山武育苗センターにて育成を行い、成長した苗木を宮城県、岩手県の森林に植樹する取組みです。



新たな貞元地区文化の創造



貞元餅の開発・販売や地元の作物を活用した緑のカーテン作りなどを行い、地域間の交流を深め、貞元地区の発展に寄与する取組みです。

地域による放課後子ども支援プロジェクト



NPOを中心に市や大学、企業とが連携し、学童保育でのワークショップや海外の劇団による演劇公演を行うことで、「つながり」と「学び」を提供する取組みです。

「食と健康」についての食育推進事業

市民が参加するイベントにおいて無料で血管年齢測定を行い、その結果をみて食事相談、玄米酵素製品の紹介やサンプル配布等による食育活動に取り組んでいます。



金融教育講義

県内の学生を対象とし、企業とNPOの協働によるクレジットカードや多重債務についての講義、東京ベイ信用金庫職員によるグループディスカッションを実施しています。



花と緑で旭を元気にするプロジェクト



震災で荒れたままの空き地を地区ごとに「小さな庭」として花の植え付けを行う活動や、避難道にもなっている遊歩道の清掃活動を実施しています。



スケジュール 平成25年度

6月～ 8月	連携事例の募集
9月～10月	事務局による一次審査
10月～11月	審査委員による二次審査
12月	表彰式

※26年度の募集も、6月頃から開始する予定です。

第3回ちばコラボ大賞 連携事例紹介リーフレット

平成26年3月

編集・発行

千葉県環境生活部県民交流・文化課
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL:043-223-4165/FAX:043-221-5858
Email:npo-kyodo@mz.pref.chiba.lg.jp

千葉県ホームページ
「ちばコラボ大賞」

その他、詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/collabo/index.html>